

島の千歳

長唄

全詞章

大槻加電 作詞

明治三十八年（一九〇五）

七代目望月太左衛門襲名披露

丹頂たんちやうりよくまう緑毛いろすがたの色姿、朝日あさひうつろふ和田津海

蓬よもぎが島しまの千歳せんざいが、うたふ昔むかしの今様いまやうも

変かはらぬ御代みよの御宝おんたから、鼓腹こふくの声々こゑごゑうち寄よする

四方よもの敷波しきなみ立たつか、返かへるか、返かへるか立たつか

返かへす袂たもとや立烏帽子たてえぼし

水みづのすぐれておぼゆるは、西天竺さいてんぢくの白鷺池はくろううち

しんしよう許由きいうに澄すみ渡る、昆明池こんめいちの水みづの色いろ

行末ゆくすゑ久ひさしくすむとかや、賢人けんじんの釣つりを垂たれしは

嚴陵げんりやうらい瀬かの河みづの水

月影つきかげ流ながもるなる、山田やまだの笥かけひの水みづとかや

芦あしの下葉したばをとづるは、三島みしま入江いりえの氷水こほりみづ

春立はるたつ空そらの若水わかみづは、汲くむとも汲くむとも尽つきもせじ尽つきもせじ